

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年7月6日 (2017.7.6)

【公開番号】特開2017-35235(P2017-35235A)
 【公開日】平成29年2月16日 (2017.2.16)
 【年通号数】公開・登録公報2017-007
 【出願番号】特願2015-157546(P2015-157546)
 【国際特許分類】

A 4 5 D 40/00 (2006.01)

A 4 5 D 40/20 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 40/00 W

A 4 5 D 40/20 G

【手続補正書】
 【提出日】平成29年5月22日 (2017.5.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 9】

本発明は、化粧料が収容されたカートリッジ体に取り付けられて用いられるカートリッジ式化粧料容器であって、前記カートリッジ体が着脱自在に取り付けられる本体筒と、前記本体筒に相対回転可能に設けられる駆動体と、外周に雄ねじが形成され、前記本体筒と前記駆動体との相対回転によって繰り出されて前記カートリッジ体内の化粧料を押し出す押棒と、前記押棒の外周に設けられる雌ねじ部材と、前記雌ねじ部材に形成され、前記カートリッジ体が前記本体筒に取り付けられる際に前記雌ねじ部材が前記カートリッジ体によって押圧されることにより、前記雄ねじと螺合する雌ねじ部と、前記雌ねじ部材を、前記本体筒の前端開口方向に付勢する付勢部材と、を備え、前記本体筒は、前記雌ねじ部と前記雄ねじとの螺合が解除される方向への前記押棒の移動を制限する制限部を有することを特徴とする。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 7 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 7 4】

近接ガイド部 2 5 の傾斜面 2 5 a は、カートリッジ式化粧料容器 1 が組み立てられた状態において、押棒 6 0 に対して雌ねじ部材 5 0 の雌ねじ部 5 3 側の端部 2 5 b が、雌ねじ部 5 3 とは反対側の端部 2 5 c よりも前端開口 2 2 側に位置するように傾斜する。そのため、雌ねじ部材 5 0 は、カートリッジ外筒 1 0 が本体筒 2 0 に取り付けられる際には、カートリッジ外筒 1 0 により押圧されて軸方向に移動するとともに、雌ねじ部 5 3 を雄ねじ 6 1 a に近接させる方向に案内される。このように、近接ガイド部 2 5 は、カートリッジ外筒 1 0 が本体筒 2 0 に取り付けられ雌ねじ部材 5 0 がカートリッジ外筒 1 0 によって押圧された際に雌ねじ部 5 3 と雄ねじ 6 1 a とが螺合する方向に雌ねじ部材 5 0 を案内する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 8 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 8 4 】

離間ガイド部 4 4 の傾斜面 4 4 a は、カートリッジ式化粧料容器 1 が組み立てられた状態において、押棒 6 0 に対して雌ねじ部材 5 0 の雌ねじ部 5 3 側の端部 4 4 c が、雌ねじ部 5 3 とは反対側の端部 4 4 d よりも前端開口 4 1 側に位置するように傾斜する。そのため、雌ねじ部材 5 0 は、カートリッジ外筒 1 0 が本体筒 2 0 から取り外される際には、コイルばね 7 により付勢されて軸方向に移動するとともに、雌ねじ部 5 3 を雄ねじ 6 1 a から離間させる方向に案内される。このように、離間ガイド部 4 4 は、カートリッジ外筒 1 0 による雌ねじ部材 5 0 への押圧が解除された際に雌ねじ部 5 3 と雄ねじ 6 1 a との螺合が解除する方向に雌ねじ部材 5 0 を案内する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 0 9 】

突壁部 4 6 が螺合解除方向への押棒 6 0 の移動を制限するので、雌ねじ部材 5 0 が本体外筒 2 1 の近接ガイド部 2 5 により押棒 6 0 に近接して押棒 6 0 が雌ねじ部材 5 0 により押されても、押棒 6 0 は移動しない。したがって、雄ねじ 6 1 a と雌ねじ部 5 3 との螺合は、弱まりにくい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 2 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 2 3 】

カートリッジ式化粧料容器 1 0 1 は、カートリッジ体 2 が取り付けられて用いられるものである。カートリッジ式化粧料容器 1 0 1 は、図 1 2 に示すように、カートリッジ体 2 が着脱自在に取り付けられる本体筒 1 2 0 と、本体筒 1 2 0 に対して同軸に、かつ相対回転可能に取り付けられる駆動体 1 3 0 と、押棒 6 0 と、雌ねじ部 5 3 が内周に形成される雌ねじ部材 1 5 0 と、雌ねじ部材 1 5 0 及び押棒 6 0 を付勢する付勢部材としてのコイルばね 1 0 7 とを備える。本体筒 1 2 0 は、駆動体 1 3 0 が相対回転可能に取り付けられる本体外筒 1 2 1 と、本体外筒 1 2 1 の内周に挿入される本体内筒 4 0 とを備える。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 2 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 2 7 】

図 1 4 及び図 1 5 に示すように、本体外筒 1 2 1 は、前端開口 2 2 と後端開口 2 9 とを有する略円筒状に形成される。前端開口 2 2 の近傍の内周に、環状の嵌合凹部 2 3 が形成される。後端開口 2 9 の近傍の内周に、嵌合凹部 2 8 が形成される。本体外筒 1 2 1 の内周には、近接ガイド部 2 5 とガイド壁部 2 6 とが形成される。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 4 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 4 5 】

ラチェット部材 8 0 を本体外筒 1 2 1 に対して回転許容方向に回転させようとする、ラチェット歯 8 1 b の傾斜面がラチェット溝 2 4 の傾斜面から径方向内側の力を受け、支持部 8 1 a が径方向内側に撓む。支持部 8 1 a の撓みにより、ラチェット歯 8 1 b が径方向内側に移動し、ラチェット歯 8 1 b の傾斜面がラチェット溝 2 4 の傾斜面を乗り越える。その結果、回転許容方向への回転が許容される。

【 手続補正 8 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 4 9

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 4 9 】

ラチェット部材 8 0 の前端面（本体部 8 1 の前端面）8 0 a は、雌ねじ部材 1 5 0 の後端面 5 0 b に当接する。ラチェット部材 8 0 の後端面（嵌入部 8 2 の後端面）8 0 b には、コイルばね 1 0 7 が当接する。つまり、コイルばね 1 0 7 の付勢力は、ラチェット部材 8 0 を介して雌ねじ部材 1 5 0 に作用する。

【 手続補正 9 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 5 0

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 5 0 】

ラチェット部材 8 0 は、カートリッジ外筒 1 0 が本体筒 1 2 0 に取り付けられるときに、コイルばね 1 0 7 を圧縮して収縮させながらカートリッジ外筒 1 0 及び雌ねじ部材 1 5 0 とともに移動する。ラチェット部材 8 0 は、カートリッジ外筒 1 0 が本体筒 1 2 0 から取り外されるときに、コイルばね 1 0 7 の付勢力によって、カートリッジ外筒 1 0 及び雌ねじ部材 1 5 0 とともに移動する。

【 手続補正 1 0 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 5 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 5 3 】

駆動体 1 3 0 の嵌入部 1 3 1 は、駆動体 3 0 の嵌入部 3 1 と比べて短く形成される。また、雌ねじ部材 1 5 0 の挿通部 1 5 2 は、雌ねじ部材 5 0 の挿通部 5 2 と比べて短く形成される。さらに、コイルばね 1 0 7 の自由長は、コイルばね 7 の自由長と比べて短い。そのため、雌ねじ部材 1 5 0 の雌ねじ部 5 3 から駆動体 1 3 0 の底面 3 7 までの寸法は、第 1 の実施形態におけるカートリッジ式化粧料容器の対応する寸法と略等しい。したがって、第 1 の実施形態で用いた押棒 6 0 を本実施形態でも用いることができる。

【 手続補正 1 1 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 9 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 9 4 】

次に、尾栓 9 0 を保持部材 3 7 0 の後端開口 1 1 b に通して保持部材 3 7 0 の内周に挿入し、尾栓 9 0 の嵌合凸部 9 1 とカートリッジ外筒 3 1 0 の嵌合凹部 3 1 7 d とを嵌合する。これにより、尾栓 9 0 がカートリッジ外筒 3 1 0 に組み付けられ、カートリッジ外筒 3 1 0 からの保持部材 3 7 0 の抜けが防止される。

【 手続補正 1 2 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0200

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0200】

また、先端面が軸方向に対して傾斜した化粧料は、化粧料の先端面の傾斜方向がカートリッジ外筒110に対して一定になるように、回転せずに押し出されることが好ましい。カートリッジ体102では、保持部材170とカートリッジ外筒110との相対回転が拘束されるので、化粧料を回転させずに押し出すことができる。したがって、カートリッジ体102は、先端面が軸方向に対して傾斜した化粧料に対してより好適である。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0203

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0203】

また、押棒60を繰り戻し可能なカートリッジ式化粧料容器1にカートリッジ体302を挿着して使用すれば、コイルばね9の付勢力により、化粧料挿入部371に挿入された化粧料を繰り戻すことができる。

【手続補正14】

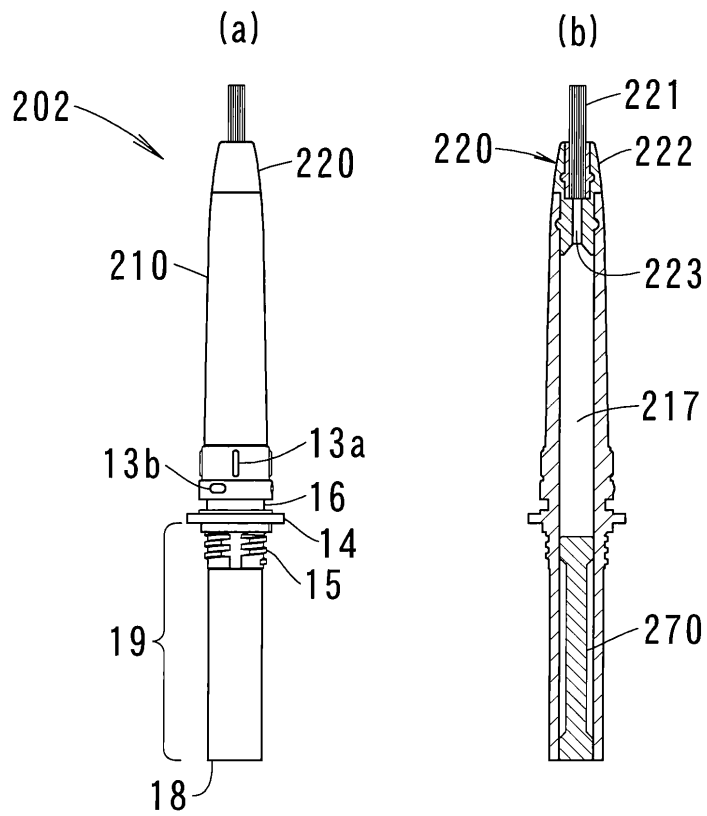
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図21

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 1】



【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 2】

